

かわらばん 瓦版しろいし

発行：白石市市民経済部まちづくり推進課
編集協力：特定非営利活動法人 都岐沙羅パートナーズセンター

vol.3
令和6年3月15日発行



白石地区・地域づくりフォーラム2ndを開催

10～70代が膝をつき合わせ和やかな雰囲気の中で意見交換を実施

世代間ギャップを埋める第一歩は対話の場から

令和6年1月18日(木)に「白石地区・地域づくりフォーラム」の第二弾をホワイトキューブにて開催しました。今回は、昨年秋季に実施したWEBによる住民アンケートの結果と複数回にわたって開催した世代別会議の結果を幅広い年代の市民が一堂に会して確認・共有し、世代間ギャップを埋めるために膝をつき合わせて意見交換を行うという内容。各世代別会議に出席した方々を中心に参加を呼びかけたところ、平日夜にも関わらず60名以上の市民に参加いただきました。

今回のフォーラムは、文字どおり「多世代参加」を具現化することができました。10代の高校生、20代の若者、30～50代の中堅世代、そして自治会や各種団体の役を担っている60代以上の熟練世代が満遍なく集まりました。少人数で車座となり、和やかな雰囲気の中で一人ひとりが考えていることを率直に語る、そして周りはそれに耳を傾ける。やはり、世代間ギャップを埋めるための第一歩は、こうした対話の場からはじまることを、あらためて認識しました。

多世代対話が実現できた今回のフォーラムは、どんな様子で、どのような意見が出てきたのかを次頁以降でご紹介します。

円卓談議で出された主な意見

円卓談議で各グループから出された主な意見を整理した結果は、次のとおりです。

●若い世代は地域活動にそもそも興味がないと思っていたが、WEBアンケートの結果を見ると関心を持っている方が多く、前向きでそれなりに意見を持っていることがわかった。

●WEBアンケートの結果から、関わりたくないが関心ある人・関わりたいが時間がない人は案外多い。そして、人との関わり合いに不安を持っている人が少なくないようだ。



●WEBアンケートの結果で、白石に愛着がある人が思った以上に多いという印象。これからの地域づくりのヒントが、ここにあるかもしれない。

●多世代交流の場・機会がない。他の世代とまとまった時間、一緒に過ごす・関わる機会がないため、世代を超えて「コミュニケーション」を取る機会が失われている。「関わりしろ」を増やすには、そのための環境づくりから始めることが大切だ。

●活動に参加する動機になるのは顔見知りかいるかどうか。一人ひとりへの声かけが大切であり、広報だけでは解決しない。

●同年代のつながりをもっと大事にすべき。若い世代が活躍できる場を増やし、同世代で考え・行動してもらおう機会をもっと必要だ。今までは違う形・やり方であっても、温かく見守り・後押ししていくことが、これからは大切ではないか。

●分野・活動内容によって「手伝える」という人はそれなりにいる。具体的な役割を示し、企画段階から参画してもらおう機会を設けることで、地域活動への参加の裾野が広がっていくのではないかと。

●地域活動・役員を引き受けたことによる大変さ・負担の大きさはかなり伝わってきており、それゆえ「気にしているけど行動に移せない」「引き受けたくない」という悪循環が生じているのではないかと。これを変えていくきっかけが求められている。

られている。

●そもそも、自治会や地域活動のことを知らない人が多い。何を目的とした活動なのか？なぜ必要なのか？など、基礎的なことがほとんど伝わっていない(それを知る機会もない)。紙媒体の各戸配布や回覧板での周知だけでなく、学校の協力を得ての情報伝達・SNS等を通じた情報発信など、今の時代にあわせて方法・やり方を変えていくことが不可欠だ。

●自治会側の問題・課題はいろいろあり、持続可能性を高めていくために考えていくことは多々ある。

●これからの社会に適した地域コミュニティのあり方(自治会との役割分担/役のあり方/多様な人・団体との協働など)を模索していくことが大切だ。

多様な意見が出されましたが、共通しているのは「現状のままではいけない」という思いでした。今回のフォーラムで、世代を超えてこうした共通認識が確認できたことは、とても重要な成果だと思えます。ぜひ、これを次につなげていきたいと思えます。

【編集後記】

一年を通してフォーラムや世代別会議を開催し、着実に白石地区に「地域づくり」の芽が伸び始めていることを実感します。令和6年度はより具体的な話し合いや取り組みを進め、やがてこの芽に素敵な花が咲き誇る姿が待ち遠しいですね。

各世代別会議とWEBによる住民アンケートの結果の共有

フォーラムの冒頭、昨年に若者・次世代・熟練世代別に開催した世代別会議とWEBによる住民アンケート（以下、WEBアンケート）の集計結果について、本フォーラムのコーディネーターを務める斎藤主税氏（特定非営利活



動法人都岐沙羅パートナーズセンター理事・事務局長）より説明がありました。
各世代別会議で出てきた意見（概要は本紙前号にて紹介）に加え、WEBアンケートによって白石地区住民、特に10代の若者たちの意識が

少人数が膝をつき合わせて話し合う円卓談話タイム

世代別会議とWEBアンケート結果を共有した後は、少人数で車座となり、ざっくばらんに意見交換を行う円卓談話タイム。

①世代別会議の結果・WEBアンケートの結果を聞いての感想

②地域活動への「関わりしろ（＝関わるきっかけ）」を増やすために、何が必要？何が足りない？

という2つをテーマに、井戸端会議風に話し合っていました。

話し合いの際は、円卓型の段ボール（通称「えんたくん」）を膝の上に載せ、そこにメモを書き残してもらった形式で実施。そして、約20分ごとに席替えを行って、顔ぶれをどんどん変えなが

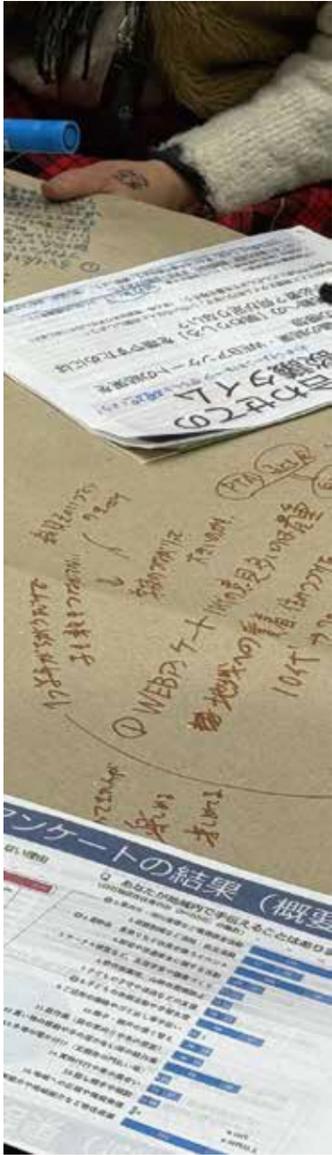


数値化されて浮かび上がった説明に、参加された方々は興味津々の様子。（WEBアンケート結果概要は次頁左をご参照ください）とりわけ、若者（特に10代）の地域活動への関心は案外高いこと、参加していないのは情報が伝わっていない・機会がないことが理由であるという点に、注目されていました。

ら進めていきました。

いままで経験したことがないやり方、かつ、普段なかなか接点のない人・世代同士の対話であるため、最初は若干ぎこちなさもありましたが、それもすぐに慣れ、どのグループも和やかな雰囲気の中で意見交換が行われました。

10代の高校生・20代の若者の率直な意見をしっかりと受けとめようと聞き入る60代以上の熟練世代。経験豊富な熟練世代の話しに、目を輝かせて聞き入る若者たち。仕事や子育てと地域活動の両立の難しさを、率直に語る中堅世代。予定していた時間はあっという間に過ぎ、とても有意義な対話になったようです。

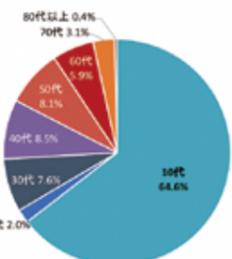


WEBによる住民アンケートの結果（概要）

世代別での対話の場以外にも幅広く住民の意見を伺うために、WEBによるアンケートを昨年に実施しました。フォーラムでは、この集計結果をお伝えし、意見交換をしました。（主な質問に対する集計結果を以下に示します）

実施時期：R5年9月29日～10月31日
実施方法：WEBフォームからの回答
回答者数：846人

白石地区在住の回答者数は556人
（回答者総数の約2/3）

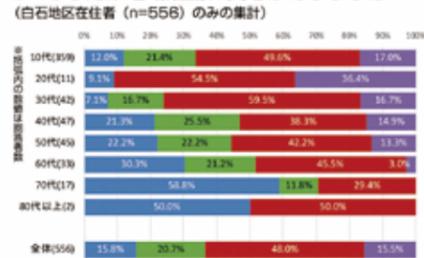


回答者（白石地区在住者）の年代構成（n=556）

白石地区内の中学・高校の協力により10代の回答多数。（全体の約2/3）
※アンケート結果は、年代別に回答割合を算出し、世代間の意見の違いを比較する形で集計。



Q あなたは地域活動に関心がありますか？



50代以下は「関心はあるが参加していない」の回答割合が4～6割

Q 地域活動に参加していない理由



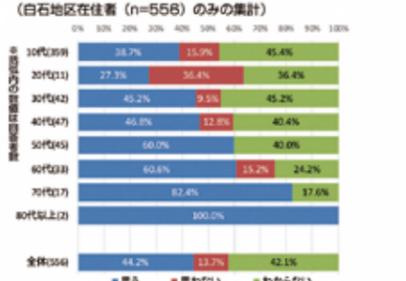
Q あなたが地域内で手伝えることはありますか？



内容によって潜在的な活動の担い手はそれなりの人数いる！

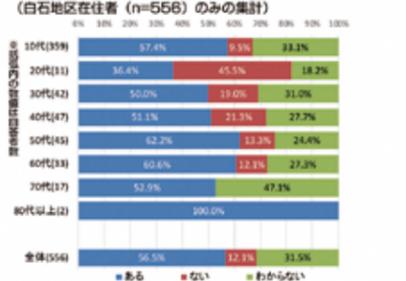


Q この地域に住み続けたいと思いますか？



白石地区でも40代以下の定住意向が高い訳ではない。

Q この地域に愛着がありますか？



大半の年代で「愛着あり」が半数以上